

平成 21 年度第 4 回 第 2 期宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見部会

日 時：平成 21 年 9 月 7 日（月）18：00～20：00

会 場：宮前区役所 4 階会議室

参加者：高木部会長、永野委員長、河井委員、鈴木委員、谷山委員、千葉委員、恒川委員、松井委員、渡辺委員

（以上区民会議委員 9 名、松井委員は冒頭約 30 分のみ参加）

岩佐、成沢、鈴木（以上宮前区役所企画課 3 名）

岩下（株式会社シー・エス・ケイ）

開会

- ・開会あいさつ（岩佐企画課長）
- ・公開の説明
- ・資料確認

議事

（1）具体的な課題解決について

※事務局から資料 1 に沿って説明があった。資料内容に追加された説明事項は主に以下のとおり。

- ・子ども支援室に相談したところ、現在区内の大半の小学校で総合学習の時間に行われている「まち探検」とうまく合わせて、カルタづくりに取り組めると良いのではないかという話があった。
- ・また、できれば、毎年同じカリキュラムに取り組めるとより良いとの話があった。資料 1 は進め方の案であり、案 1 は 2 年間かけてカルタを作成する案、案 2 は同じ作業を 2 年繰り返す案である。

■意見交換

松井委員 学区による温度差がおそらくあり、どうやってそれを調整していくかが鍵となると思います。

高木部会長 今期で区民会議委員の任期が終わる方々には、ぜひこのカルタ制作実行委員会に入っていたきたいです。

永野委員長 区民会議委員の再任は二期までとなっています。

事務局 任期にかかわらず、この部会の方々にはぜひ関わっていただきたいと考えています。

松井委員 提案の過程がよくわかっている区民会議委員が、カルタ制作実行委員会に相当数入っている必要があります。資料だけで、各地域に主旨等を理解してもらうのはなかなか難しいと思います。各委員が世話役になり、それぞれの人脈も活用する。また、一方では一般的なチラシで公募もかける。その両方で進めていく必要があります。

永野委員長 所属している地域団体の代表として出るのか、個人的な公募としてでいいのか、いろいろな方法があります。私は、現在の所属団体である青少年指導委員会を今度で定年になってしまうので、現在ある背景の団体がなくなってしまいます。個人の公募で参加ということになるのではないかと思います。

高木部会長 呼びかける団体や委員の人数など枠など、できあがってくる実行委員会の役割をよく考えながら決めていく必要があります。

松井委員 全地域で一斉にカルタづくりをスタートさせるのは難しいと思います。動けるところから、どんどん動かしていき、その情報を流すことで、他の地域も頑張ってくれると良いと思います。

恒川委員 総合学習への取り入れをするのであれば、学校との調整は実行委員会のもっとも重要な役割になります。学校の他にも老人会など、学校と関わっている団体も巻き込んでいきたいです。

永野委員長 学校は4月には年間のおおまかなスケジュールを決めてしまうので、22年度に取り組みを始めるのであれば、21年度中に学校に働きかける必要があります。校長会で主旨説明をするのが一番早いと思います。

松井委員 学校に理解をいただいた上で、地域が主体的に動くのが理想です。学校に全ておまかせではできないと思います。

鈴木委員 各地域での動き方がバラバラにならないよう、校長会で、確実に話を伝える必要があります。

事務局 新任や異動してきた先生が「まち探検」の担当になり、あまり地元を知らないことも多いようです。そういう時に、こちらから資料提供できると食いつきがよいのではないかと思います。さらに、具体的に取り組みを進める際には、こういう人と一緒に探検してみてくださいと地域の人材紹介も合わせてできるとより良いと思います。

恒川委員 松井委員もよく言っていますが、地域教育会議が核になってくれると理想的です。

松井委員 本来の役割でもあると思います。教育委員会にあれこれ言ったり、言われたりするのではなく、教育委員会ではできない、地域に根ざした活動になります。

高木部会長 カルタづくり実行委員会にはぜひ学校関係の方をいれたいです。地域教育会議にも期待したいですが、地域による温度差もあり、関わっていただけない地域もあると思います。

松井委員 地域の主体性を重視したいです。地域教育会議や学校などどこかの団体に丸なげするのではなく、様々な地域の人材が関わる形に持っていきたい。立ち上げさえうまくいけば、あとは自然に回っていくようになれば良いです。

高木部会長 人材の集め方をかなり考えないといけないと思います。今、ここで話し合われていることがそのままうまくカルタづくり実行委員会に移行され、同じ話を繰り返さないようにしないと、なかなか進みません。委員会には、どこかの学校長、教頭に一人入っていただけると良いと思います。

河井委員 実際には、校長先生は総合学習の内容にあまり口出すことはなく、大筋を了解するだけです。具体的な詳細は、その学年の担当の先生と打ち合わせていくことになると思います。

永野委員長 地域安全マップづくりに総合学習で取り組み始めて3年目になります。初年度はなかなか組み込めず、2年目にやっと何校か始められ、3年目にある程度実施できるようになりました。

事務局 全く新しい内容を組み込むとなりますと、そのようになるかと思いますが、既存のまち探検の中にうまく組み込んでいく方法なら、それほど難しくなく、導入できるのではと考えています。

河井委員 決まっていると言っても決まっていないのが現状で、進め方や詳細などは、こちらからプレゼンして提案すると、わりと通ることがあります。

高木委員 良いプレゼンテーションを用意しておけば、多くの学校で取り入れていただけるでしょう。

河井委員 予算がかかる提案はできません。私はいつも予算を抑えた提案をしています。多少の経費なら「その程度なら」ということで出ますが、学校にもあまり予算はありません。

事務局 予算については、区役所としてもある程度は確保する考えです。充分かどうかは別ですが。

河井委員 総合学習をボランティアのお母様方に手伝っていただくことがあるのですが、その分のお茶代や食べ物代は出ていない現状があります。こどものため以外の経費はなかなか学校からは出ません。

恒川委員 現在の総合学習の「まち探検」はどのようなしくみで実施されているのでしょうか？

事務局 4年生が対象で、地域のいろいろな人が講師になって、実施しているようです。

高木部会長 地域にある工場に見学に行くなどの形もあります。

永野委員長 私も一度講師をしたことがあります、中身は講師の先生におまかせのことが多いようです。学校によってテーマ設定や内容が違います。

河井委員 地域の中で何ヶ所が訪問場所を設定して、農家やガーデンニングを周ったこともあります。同じ学年の中でも、行き先が分かれていたこともありました。

高木部会長 商店街に行くこともあります。テーマは結構バラバラで、地域にあるものを発見するということがベースです。まさに地域の宝探しです。

カルタを進めていく全体の方針を決める人と各地域に持ち帰って広めていく人、学校の総合学習との設定をいかに持っていくかということなどがポイントになりそうです。それ以外に実行委員会を組織する上でポイントとなりそうなことは何かあるのでしょうか？

恒川委員 町会会・自治会にはやはり声をかけなくてはいけないのではないかと感じています。あとはぜひ父兄、PTAにも呼びかけたいです。

永野委員長 その地域の特色によって、社協、農協や商店街などにも呼びかけたいです。

恒川委員 ただ、あまりたくさんの方が本部の委員会に入っても、ぐちゃぐちゃになり、なかなか進まなくなってしまいそうです。

高木部会長 やはり全体の委員会については、半分くらいはこの部会の区民会議委員である必要があると思います。これまで行ってきた意見交換をまた繰り返すようになっては、もったいないです。なぜ小学生を対象としたのかなどの蒸し返しはせずに、これまでの検討の成果の上に立って進めたい。教育関係の他には、観光協会もぜひ全体の委員会に加わっていただきたいです。

鈴木委員 委員の人数は20人程度でしょうか。

高木部会長 10人だとちょっと進めていく上で少ないと思います。少なくとも15、6人は欲しいところでしょうか。

恒川委員 進めていく上では、各学校や地域を対象にした説明会をまず開く必要があると思います。そこで、目的や主旨をうまく伝えるためのマニュアルや資料が必要です。

高木部会長 今年度の提案として、それに近いものまで作成しておかないと、来年度すぐに動き出せないイメージを持っています。

また、委員会に最初から全ての関係団体に関わっていただくのは難しく、時間もかかってしまうでしょうから、まず少数で立ち上げて、各地域で進めながら、様々な団体に関わっていく考え方も必要だと思います。

事務局 区民会議に委員を推薦されているような団体には声をかけ、関わっていただくイメージを事務局としてはもっていました。そうしますと、委員は15~25名くらいになると思います。

小学校の授業、総合学習の中で取り組んでいくということですが、各地域の中に全て組み込んでいくのではなく、作成してもらった絵札や読み札を委員会に提出してもらうことで、授業としては一度完結させ、その先のイベントなどについては、学校とは別の形で地域毎に子ども達に声をかけながら実施した方が、進めやすいのかなと感じています。

鈴木委員 たくさん作品が集まったら、カルタを何組かつくるようなこともできないでしょうか。

永野委員長 たくさん作品が集まったら、途中経過の作品展示会のようなイベントがあっても良いと思います。

高木部会長 その辺りはカルタの活用の仕方の提案とも関わってきそうです。先ほどの話ですが、授業は授業として一度完結させた方が、やはり進めやすいかなと私も感じました。学校としてもその方が動きやすいと思います。

恒川委員 最終的に平成 24 年度に区政 30 周年記念事業として、宮前区のカルタを選ぶまでは、カルタはたくさん、何組もあっても良いと思います。

事務局 資源を宝に顔に押し上げていくという主旨もありますので、徐々に取捨選択してく作業は必要だと感じています。扱い方の工夫が必要です。

高木部会長 各地域で作業を進めていく中で、「これは外せない」というような資源が自然に出てくるのではないかと考えています。区内に 18 校小学校がありますが、区全体でカルタを選ぶ場合、文字数を考えると、各校から 3 枚程度しか選ばれないということです。かなりの厳選の作業になりますが、その辺りも楽しみながら進めたいです。各地域に、自分の地域のどの資源をアピールや紹介したいのか、考えてもらうきっかけをつくっていくことも元々のねらいです。

永野委員長 既にある「野川カルタ」のような地域別のカルタをまずつくる。その中から更に全区版への推薦をしていくということです。

鈴木委員 より多くの人々の作品が取り上げられることにもなります。

河井委員 進め方、つくり方の全体マニュアルがいりますね。「いろは」にするのか、「50 音」にするのか。野川カルタは実は 3 文字ほど札がない文字があります。

高木部会長 野川カルタは一つの手本になるものだと私は理解しています。野川カルタを他の地域にも広げていくという考え方です。

鈴木委員 野川カルタの札の一覧が入ったポスターなどはぜひ参考資料として見せたいです。

事務局 野川カルタでは「いろは」で五・七・五を基本とした読み札づくりがされています。

高木部会長 それを基本形としてそのまま採用してはどうでしょうか。野川地区には、足りない札の制作やリニューアル、さらにはどんどんカルタの活用をお願いできればと考えています。

恒川委員 各地域でカルタができてきたら、同時に取り上げられている資源がどこにあるのか、マップに落とししていく作業も進められると良いと思います。

高木部会長 区全体の実行委員会についてはかなり固まってきたと思うのですが、どうでしょうか。

事務局 過去 2 年間、グリーンフォーラム 21 さんで地域毎のマップづくりに取り組んでくださっています。また、歴史文化調査委員会でも今年度ガイドマップをつくる取組が進められています。こうした方々とぜひ一緒に連携しながら進められればと思います。特にグリーンフォーラム 21 では地区毎に世話役さんが居る中で取組を進めておられます。また情報発信の上ではぜひ、宮前ぽーたろうさんのお力もお借りしたいと考えています。

永野委員長 区民会議として区長に提案をする前にある程度動き出さなければならない部分が出てくるように思います。仮の組織や準備会として今年度からの動き出しが必要だと思います。

高木部会長 これまで名前の挙がった組織については、この部会のメンバーでかなりカバーできます。

事務局 11 月 13 日の次回の全体会で提案内容案の報告をしていただき、12 月の企画部会で最終調整、年内に提案というのが、現在の想定スケジュールです。各組織への根回しや下話はある程度進めておいて良いと思いますが、正式に組織として公にスタートするのは区民会議の後というのが本来の順序です。校長会へのアプローチなどは事務局から行う考えです。年内に動きだせば充分間に合うのではないのでしょうか。

高木部会長 個人的には、地域のイベントで校長に会った時に、これまでの検討経過や来年度カルタづくりに地域毎に取り組むことになりそうなこと、野川カルタのことなどを話したりしていますが、正式なお願いはまだしていません。公に動く際にはやはり、ある程度きちんと手順を踏んでいく必要があります。11 月の区民会議での報告後は、公に動き出せると思います。

恒川委員 どういう考え方、進め方でいくのか、はっきりさせないと動きにくい部分もあると思います。

事務局 繰り返しになりますが、今回は全く新しいことを組み込むのではなく、既存の「まち探検」という取組の中に、カルタづくりをうまく組み込んでいく進め方ですので、現在のスケジュールでも充分間に合うと考えています。

高木部会長 総合学習の時間自体の現象などはあるかもしれませんが、「まち探検」が今後すぐに無くなるようなことはないと思います。この部会が提案をまとめることで、目標や内容がよりはっきりすれば、取り上げやすくなると思います。

地区別のカルタ制作実行委員会については、一律にスタートするのではなく、できる地域から進めていく形になるかと思っています。地域の温度差などもあります。

鈴木委員 文化協会や観光協会で、個別に作品を募集するようなこともやって良いでしょうか。

高木部会長 どんどんやっていただいて良いと思います。

永野委員長 宮前区内の諸団体にどんどん動いていただきたいです。

恒川委員 第一に学校の意向を汲んで、つながりを大事にしながら進めていきたいです。

永野委員長 まず区全体の方針、進め方を本部の実行委員会で決め、それから地域に入ってくということです。

高木部会長 進め方としては、資料1の案2になるかと思っています。22年度と23年度でそれぞれ読み札・絵札を募集する形です。

事務局 できるだけたくさん作品を集めたいです。

高木部会長 本部の委員会は区民会議委員やグリーンフォーラム21のメンバーを中心に組んでいく。地域については、様々な団体に呼びかけながら、できるところから取り組んでいくということで良いでしょうか。

フォーラムについては、地区ごとの開催でも良いですが、年度末の区民会議のフォーラムに発表会のような形で盛り込んでも良いと思います。

事務局 資料で地区別のフォーラムとしたのは、地区別の実行委員会を立ち上げることを想定しての記述でした。この辺りは熟度や進め方に応じて変更して良いと思います。

永野委員長 核となる団体として、グリーンフォーラム21、歴史文化調査委員会が挙げられましたが、まちづくり協議会も声をかけてみてはどうでしょうか。どのような動きができるかは、まちづくり協議会の中での協議にもよると思いますが。

高木部会長 投げかけることは良いと思います。本来はそうした役割ももっている組織だと思いますし、まちの情報もかなりのものを持っている団体です。

動き出した際の情報発信も重要です。宮前ぽーたろうでカルタの情報特集ページをつくって、どこかの小学校でどんな取組が進んでいるなど、最新の情報を更新して発信できると良いと思います。

千葉委員 充分可能です。

鈴木委員 先日市長さんとお会いした時は、ここぞという活躍をしている団体には予算はどんどん出したいと言っておられました。区政30周年に向けての事業なのですから、この事業が認められるように頑張りたいです。

事務局 ただ、リーマンショックの影響もあり、全体として予算は縮小傾向にあります。

鈴木委員 区民会議の知名度がまだまだであることも言っておられ、宮前区では出張所などでも会合を開催していることをお伝えしたら、「それは良いことをしている」ともおっしゃっていました。

高木部会長 野川地域の扱いについてはどうでしょうか。再度作成するのでしょうか。

事務局 まず野川地区でカルタづくりに関わった方々、第一地区社協の亀ヶ谷さんなどの意向を伺うことが必要かと思います。昨年度末の区民会議フォーラムで自分たちの取組が認められ、報告の機会を得たことを喜んでおられ、取組が他の地域にまで広がっていくのなら嬉しいとはおっしゃっていました。意向を聞いて、再度は作らなくても良いということでしたら、それでよいと思います。

鈴木委員 野川カルタは野川カルタとして、今回の提案のカルタは、そのカルタとして別に公募してつくるのはだめでしょうか。

事務局 何文字か、抜けている札もあるのですが、それはそのままでも特に問題はないと思っています。

高木部会長 今あるカルタを差し置いて、別に作成するのはあまりよろしくないと思います。無い文字の札をつくったり、一部リニューアルしたり、ブラッシュアップみませんか、予算もつきますよという働きかけならできると思います。遊び方の提案をどんどんしていただくことなどもお願いしたいです。野川が一步先を行っててもらえると、全体の推進の上でも非常に良いと思います。

事務局 地図には載っていないものもあるようです。場所が特定できない資源もあります。

恒川委員 群馬のカルタの事例に大変感銘を受けました。ある段階まで来たら、あのカルタもぜひ紹介していきたいと思います。最終的に「宮前区の顔づくり」を目指すならば、あのカルタのようにしっかり定着させなければなりません。

高木部会長 上毛カルタは、地域も、取り上げている資源も非常に広範にわたっています。小学生の取組を中心としていく中では、なかなかバランスの取れた、広範な資源の吸い上げは難しいかもしれません。この辺については、本部の委員会でも2年目などから「こうした資源も取り上げてみて」など働きかけやお願いをしていく必要がでてくるかもしれないと思います。最初から足かせはつくりたくないですが。

事務局 テーマが多岐にわたるような工夫を行うということですね。

高木部会長 例えば、人物などの資源はなかなかあがってきにくいのではないかと考えています。

鈴木委員 このカルタを知らないのは宮前区民じゃないと言われるくらい普及させたいですね。上毛カルタはそこまでいっていました。

高木部会長 教育の現場で使っているからこそその結果だと思います。川崎市でも川崎カルタを市政 80周年記念で作成したこともあったと思います。宮前区で取り上げられている資源はあるのでしょうか。

鈴木委員 確か購入ができたと思います。

河井委員 ホームページなどにも載っていないのでしょうか。

事務局 市民文化室のホームページにも掲載されていませんでした。

高木部会長 決して作っただけで終わらないようにしたいです。

永野委員長 オプションのマップづくりや、映像コンクールとの連携などはどの段階で織り込んでいくのでしょうか。カルタができあがってからでしょうか。

高木部会長 ウォークなどのイベントは完成していなくても、つくっていく段階でもできるのではないかと思います。最終的には野川カルタのように地図に落とすこともできます。

渡辺委員 両親や祖父母などを絡ませるといった話もありましたが、連合自治会や地区老連などにも呼びかけ、連携できると良いと思います。

高木部会長 各家庭の中でのかるたづくりが話題になるようにしたいですね。

コンサルタント これまでの議論の確認、振り返りを、私が気になっている点も含めてさせていただきたいと思います。

まず実行委員会ですが、区全体で全体の推進のためのコンセプトや進め方を協議していくために組

織します。これまでのこの部会の討議の結果を引き継ぎ、活かしていくためにも、そのメンバーには、まずこの部会委員に入っていただく。その割合は全委員の半分くらいは欲しい。それに各地域で核となって推進をお願いしたいグリーンフォーラム 21 や歴史文化調査委員会の方々にも入っていただき、20 名前後で組織する。

この委員会の役割ですが、大きく 3 つがあると思います。まず各団体や地域、学校へ働きかけ、いろいろな団体や地域に今回の取組の主旨をプレゼンし、説明し、カルタづくりの取組を推進していく役割です。次に情報発信・広報です。宮前ぽーたろうなども活用し、取組の主旨の発信や、作業の経過、先行地区の取組状況の情報発信などを、区内に広く伝える。これもこの委員会を中心に行っていく必要があります。また、2 年目以降、集まってくる作品をまとめていくこと、あげられる資源のバランスをとるような工夫や呼びかけなども役割になると思います。

進め方も大きく 3 つあるのではないのでしょうか。まず小学校に働きかけ、総合学習のまち探検の中に組み込んでいただく。これがメインになります。まち探検はほとんどの小学校で行われているということなので、全ての学校で取り組んでいただけるように働きかけます。また、できる地域から、地域別の実行委員会を組織し、その委員が中心となって、地域内の団体や子ども達に呼びかけ、学校の授業とは別にワークショップやまち歩きをしながら、作品を集めていくこともあるのではないのでしょうか。さらには、一般公募のような形で作品を募集することも同時に行っていくと良いのではないかと思います。

高木部会長 地域の実行委員会が組織されても、そこはあくまで支援であって、主体は小学校、子ども達ということで進めていくのが良いと思います。

永野委員長 地区別の委員会の役割は小学校で授業を通して集まってきた作品を踏まえて、さらにそれをブラッシュアップしていくような、働きかけになるかと思います。

コンサルタント 主旨や進め方を地域や諸団体へ伝える為のプレゼン資料の内容が非常に重要ですね。またカルタ募集の上での書式もある程度統一しておく必要があります。

高木委員長 それは野川カルタをそのまま活かすということです。

永野委員長 資源リストと合わせて人材リストも提供したいということでしたね。

コンサルタント 資源リストについては、これまでのデータの蓄積がありますので、それをその地域に対応した形で編集しなおせば、すぐできそうです。

事務局 人材の紹介まで行わないと、学校は取組の実施に二の足を踏んでしまうかもしれません。

コンサルタント フォーラムについてですが、1 年目は先行地区の報告会のような形になるのではないのでしょうか。また区民会議フォーラムの場の活用を検討していくということ。

最後に野川カルタがある野川地区については、作成に関わった第一地区社協の方々を中心に意向を伺いながら、基本的に別カルタを作成することはせず、今あるものの内容や活用法の充実を図っていく。以上がこれまでの議論だったと思います。

永野委員長 それぞれの団体の得意分野を活かしたいのですが、最終的にカルタにまとめていくことや全体の主旨を参加団体にしっかりと理解していただく必要があります。あまり得意分野のみに突っ走ってもらっては困ります。

河井委員 グリーンフォーラム 21 のガーデニング講座では、カルタづくりを前提として、それにつながるような働きかけも意識し始めています。

鈴木委員 観光協会では、去年は野川のウォーキングを行いました。今年には向丘のウォーキングを行うことになっています。その時に資料ができていれば、ぜひ働きかけを行いたいと思います。

河井委員 後で集まった作品を展示したり、整理、管理することを考えると、学校に作成をお願いする際の大きさなどもある程度統一した方が良いと思います。

→この後の意見交換の結果、ハガキ大からA5版程度の大きさで、A4版1枚の用紙の片面に字札・絵札共に記入できるような書式を作成することで合意した。

谷山委員 今回初めて参加しましたが、カルタの取組は大変良いと思います。カルタを作っていく際の組織づくりをしっかりとしていくことが重要です。その為には根回しは今から始めないといけないと思います。1年や2年はあっという間に経ってしまいます。

(2) その他

- ・次回部会日程を10月16日(金)18:00~と決定した。